

令和2年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日 時：令和2年8月21日（金） 14：00～16：00

場 所：佐倉市立美術館 4階ホール

出席者：以下のとおり

（委員 7名）

大久保委員、齊藤委員、豊田委員、長澤委員、樋田委員、安本委員、
吉村委員

（美術館職員 5名）

猪股館長、本橋副主幹（学芸員）、永山主査（学芸員）、
木邨主査（学芸員）、黒川学芸員

会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - （1）令和2年度人事異動について（公開）
 - （2）令和元年度事業報告について（公開）
 - （3）令和2年度事業計画等について（公開）
5. その他
6. 閉 会
 - ・ 展覧会鑑賞（大正イマジュリィの世界展）

【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

【3. 報告事項】

(1) 令和2年度人事異動について

<館長より説明>

(2) 令和元年度事業報告について(資料4～5頁)

<事務局より説明>

(会長)

令和元年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？

すぐに出てこないようであれば、令和2年度事業についてお聞きした上で、まとめてご意見を伺うことにいたしましょう。

(3) 令和2年度事業計画について(資料6～7頁)

<事務局より説明>

(会長)

令和2年度事業について、説明していただきましたが、何か意見はありますか？

(委員)

教育普及事業について、新型コロナウイルスの影響がどのようなものか教えていただいても良いですか？

(美術館)

「ミテ・ハナソウ」プロジェクトは対話型鑑賞を行うものであるため、新型コロナウイルスで一番影響を受けている事業であると思われます。

ミテ*ハナさんとのミーティングですが、今までにオンラインミーティングを6回、オンライン研修を4回、対面でのミーティングを2回、対面での研修を5回行ってきました。

対面でなければ出来ない研修の内、2回は昨年度末に研修がスタートした4期生を対象にしたものでした。と言いますのも、1回基礎研修を行ったのみで、その後の研修が中止になっていたためです。残りの3回については、今後

の学校連携、出前授業について、ソーシャルディスタンスを踏まえた形で授業を行う方法を研究するための研修でした。今のところ、8月26日に出前授業を行う予定ですが、その結果をふまえて、より安全な方法を模索する予定です。

また、市外の活動として神田外語大学とのオンライン授業が1回ありました。生徒さんからの質問をミテ*ハナさんへ伝え、私とその答えを集約して生徒さんへお伝えする、という形式でした。

今後、生徒さんが美術館を訪れる、という活動が1校決まっております。その他に打診があったのが、2校。昨年度から引き続き検討しておられるのが2校です。

「ミテ・ハナソウ・カイ」については9月までは全て中止になっておりまして、10月以降、どうするかという話し合いをしております。オンライン、郵便、紙を使って伝達する、等のアイデアが出ていますが、対面式は行わない、ということで意見は一致しております。

(委員)

神田外語大学のオンライン授業ですが、どういう課目の授業なのですか？学芸員ですか？

(美術館)

留学生コースといいますか、外国からの留学生の方々に、日本語のレベルが高い学生を対象としています。これまでは、同校に出前授業で何って10~15名の参加者と対話型鑑賞を行いました。

(委員)

正規の授業ですか？

(美術館)

はい、そうです。

(会長)

神田外語大学にとっては、美術の話聞くことが出来てメリットがありますが、美術館としてのメリットは何だと考えておられますか？

(美術館)

ミテ*ハナさん達が留学生と対話することで様々なことを考え、レベルアップにつながるのではないかと考えております。

(会長)

ミテ・ハナソウ・プロジェクトをもっと深めていくための一手段として、留学生との交流を考えている、という事ですね。

(美術館)

はい、そうです。ただ、連携というよりは、最初は向こうから依頼があつて対応したのがきっかけでした。神田外語大学の先生としても、どのようにすれ

ば双方にメリットがあるかを考えて下さり、一緒にプログラムについて検討しました。今度、ミテ*ハナさん向けにやさしい日本語の研修も考えて下さっているようです。

(委員)

収蔵作品展1の「ちばのいろ」について、せっかく準備されてきて、市民の方も楽しみにしておられたと思いますが、中止になってしまいました。復活する可能性はありますか？例えば、収蔵作品展3はまだ、内容を検討中ですよ
ね？

日本遺産という面白いテーマを取り上げておられるので、是非考えていただければと思いますが、如何でしょうか？

(美術館)

ご意見ありがとうございます。収蔵作品展1の復活も含め、現在検討しております。その際、展示の内容と時期が合っているかもふまえて、検討する必要があるとも考えております。また、収蔵作品展2以降の展覧会については、今回の中止という事態のことを考え、広報課に協力を依頼し、展覧会の内容を伝える動画を作成しました。その動画は「おうちで美術館」と題してYouTubeで配信しました。

(委員)

何故、動画の制作会社に依頼しなかったのですか？

(美術館)

恥ずかしながら、予算が厳しいため、広報課の職員がそれぞれの展覧会について撮影を担当いたしました。

(会長)

シナリオは誰が担当したのですか？

(美術館)

広報課の職員と担当学芸員で相談して作成しております。まだ手さぐりの部分も多く、歴史民俗博物館の動画も拝見させていただき、参考とさせていただきます。

(会長)

「カオスモス展」はどういった内容で、どの位の観客を見込んでいるのですか？

(美術館)

今回、シリーズとして15回目を迎えます。基本的に千葉県美術の状況を報告するという目的があるため、現在、千葉県に関係する作家を含め、5名の

作家と交渉をしております。出来れば、前回と同様、海外の作家に出品していただきたいと考えていますが、予算のこともありますので、慎重に交渉を進めているところです。動員に関しては、知名度のある作家を少し入れることをふまえて、1日100名として約4,000名を目指して広報等に励みたいと考えております。

(会長)

4,000名というのは、コロナウイルスの感染拡大を考慮した数字ですか？

(美術館)

いえ、前回の「カオスモス展」は休館と年度またぎの関係で展覧会期間が短いこともあり、1日平均約70名でした。ドイツ出身の著名な作家であるクリスティアーネ・レーア氏をお招きしたのですが、口コミで広まる前に展覧会が終了してしまった印象があります。今回は期間も前回の24日間と比べ、42日間と長いこともあり、動員数100名という想定は多めに見積もっています。ただ、展示室内で「密」にならないことも意識した数字になっています。

(会長)

コロナウイルスの影響というのは、「密」だから入場制限する、という意味もあるのですが、一般的に言うと入場者が来ない、という意味合いが大きいと思われまます。そういう点で言うと、現在開催中の「大正イマジユリ展」の数字を参考として予測の数字が出てきていると思いますが、何割減にしなくても大丈夫ですか？

(美術館)

今、開催18日目なのですが、大体、1日平均50名位です。前年度の「メスキータ展」で1日平均90名位でした。内容も時期も異なるため、一概には言えませんが、5割6割減かなと思われまます。ただ、印象に過ぎないかもしれませんが、お盆休みには近場で過ごす方が多かつたためか、例年よりも来館者が多いと感じていました。

(会長)

それにしてもコロナウイルスの感染拡大の影響というのは、大雑把になりますが、5割程度減という動向のようですね。そうすると、この先開催される展覧会の予想も少なめに見積もられる方が良いかもしれませんね。来年度末の決算予想というのは、求められているのですか？

(美術館)

現在、令和元年度の決算審査に取り組んでおります。本年度については現時点ではまだ来ておりません。

(会長)

そうですか。東京都では毎月このままいくと年度末にはどの位の赤字になるか、という調査が行われているようです。

(美術館)

これから5ヶ年の実施計画に取り組みますが、その中で歳入見込を求められ、査定される予定です。

(委員)

今、予算のお話が出たのですが、新型コロナウイルスの感染拡大によって佐倉市も独自に保育士とか、幼稚園の先生に補助金を出すなど、独自の支援策を打ち出しています。去年は台風等の災害の見舞金もあり、今までかからなかった予算が増えたことで、削減を求められるのは文化に関する予算かと思われまます。そうなると、海外の美術を紹介する等、費用のかかる展覧会の開催は難しくなるのではないのでしょうか。しかし、市民は「ここの空間に来ることが好き」という方も沢山おられると思います。そこで、今後、収蔵作品を充実させるようなお考えはありますか？

(美術館)

現在、収蔵作品については、寄贈受け入れを中心に考えております。ただ、全く購入予算が無い訳ではなく、文化財産取得基金もあります。

(会長)

文化財産取得基金については、どのように活用していますか？

(美術館)

幾らか残っておりますが、現時点ではさほど活用しておりません。その基金を使用した場合、翌年に「買戻し」と言ってお金を戻さなければならず、実質市が負担することには変わらないので、現実的にはなかなか使う機会がありません。過去の事例を見てみますと、開設する時には良いのですが、その後尻つぼみになってしまうような傾向があるのかもしれない。

委員のお話だと、収蔵作品だけでなく、展覧会の開催についてもご心配いただいているようです。佐倉市の場合、予算について「経常」と「臨時」があり、企画展は「臨時」に該当します。当館としましては、仮に規模の縮小等があったとしても年3回は企画展を開催したいと考えております。ただ、演劇やコンサートと同様、ソーシャルディスタンスを保つために定員を1/2、1/3に絞ることを考えなければならない時、今までどおりのクオリティを維持するためには場合によっては2倍の観覧料をいただかなければならないかもしれません。それは観覧料という形なのか、展示室の使用料という形なのか、分かりません。館としては、その他の歳入を増やす努力もするつもりですが、やはり特定財源が確保されないと、これから更に厳しくなると思われまます。

(会長)

館長が観覧料について説明されましたが、上げていこうという方針ですか？

(美術館)

いえ、検討中ではありますが、決定はしていません。もし、人数を制限していく必要が続く場合、これまでの歳入が減っていくことを考えると、観覧料を上げるという選択肢もあるということです。ただ、新型コロナウイルス対策をしながらでもお一人2時間くらいの滞在と想定して、1日最大600名は入れられると思われま

(会長)

これまで観覧料は最高いくらだったのですか？

(美術館)

一般800円という設定が最高値となります。

(会長)

机上の計算をすると1,000円という数字が出てくるのかもしれませんが、動員に影響が出る可能性もありますね。

(美術館)

当館の場合、佐倉市までの交通費も考慮する必要があると思われま

(会長)

なかなか大変ですね。

(美術館)

1日100名という数字は決して多い数字ではないと思われま

(会長)

まだ噂に過ぎませんが、新聞社が主催する大規模な展覧会について動員数を減らして設定した場合、観覧料が一人あたり2,000円になる時代が来るかもし

(委員)

先日、常設展の観覧料420円から600円に上げたので、しばらく変更は無

(会長)

特別展では幾ら位ですか？

(委員)

その都度変わりますが、大体800円位だと思われま

(会長)

ちなみに観覧料で一番高いというと、1,700円とか1,800円位でしょうか。

(美術館)

歴史民俗博物館は「人間文化研究機構」に属しておられるので、料金設定を高くしづらいところがあるのかもしれませんが。

(会長)

「久保浩展」はどういった内容で、どの位の観客を見込んでいるのですか？

(美術館)

佐倉を拠点に活動した彫刻家の回顧展です。動員数の見込みとしては1日平均67名として、3,350名を想定しております。

(会長)

「カオスモス展」も「久保浩展」も浮遊客を想定していませんよね。通りがかった客が鑑賞することはあまり無いでしょうから、割と堅いところで考えているようにお見受けします。そういった意味ではそんなにひどい動員数の落ち込みではないかもしれませんね。

(委員)

美術館を中心に発表している者としての質問なのですが、本年、「第38回新春佐倉美術展」が中止になりましたが、来年度の展覧会は「第39回」となるのでしょうか？また、佐倉市立図書館の建設工事のため、美術館前の駐車場がしばらく使用できなくなると聞きましたが、来年度の行事を組む際の参考にしたいので、状況を教えていただけますか？

(美術館)

まず、回数の数え方についての規定はありません。新春佐倉美術展については実行委員会形式をとっておりますので、美術館の決定ではなく、実行委員の皆様とご相談した上で中止の判断をさせていただきました。

駐車場の件ですが、「秋祭り」終了から工事が開始される予定です。ちなみに駐車場の所管は産業振興課、佐倉市立図書館建設については社会教育課と資産管理経営室となります。代替の駐車場は美術館のある新町には同じ台数の駐車場を確保することは難しいため、工事期間中には色々ご協力をお願いしたいと考えております。市民体育館近くの自由広場や佐倉中学校前、中央公民館の駐車場をご利用いただけると幸いです。美術館の裏にも駐車場はありますが、そちらは消防車の突入口となっているため、常にご利用いただく事は難しいと思われま

尚、工事期間は約2年半であり、新図書館の開館は令和5年3月の予定なので、同年の2月頃まで工事が予定されています。

(委員)

車を利用して搬入される方も多いと思われるので、色々にご相談したいと思います。

(委員)

「大正イマジユリィ展」について、今までは東京の弥生美術館が独壇場で行ってきた企画の一角に食い込んだという印象があります。しかも佐倉にゆかりのある作家にも焦点を当てていることも含め、素晴らしい内容でした。この展覧会は巡回する予定はあるのですか？

(美術館)

実はこの展覧会は元々巡回展です。最初は約10年前、渋谷の松濤美術館で開催され、形を変えながら開催されてきました。去年は新潟県立万代島美術館、当館の後は鹿児島市立美術館で開催される予定です。

巡回展の内容としては、第一部が代表的な13人の作家の紹介、第二部がテーマに沿った代表的な作例の紹介となっています。当館では、第二部を当館独自の構成に変更させていただきました。その中には当館の所蔵品も含まれています。

(委員)

佐倉の会場に合わせて、独自の構成にアレンジされたのですよね。元々の構成は美術館連絡協議会が入っていたりするのですか？

(美術館)

いえ、キュレーターズという企画会社によるものです。あるコレクターのコレクションを核にして、基本的な構成が組み立てられています。

(委員)

10年間も巡回しているのですよね。それぞれの美術館で独自の構成がされているのですか？

(美術館)

いえ、企画会社が組んだものをそのまま展示している会場もあると思われます。といいますのも、元となるコレクションが千点位あり、会場の規模などによってピックアップして展示しているようです。

(委員)

キュレーターズという会社は、元学芸員とか、そういう人がやっているのですか？

(美術館)

元々、そうではないと思われます。建築に関する展覧会を得意としていたようです。

(美術館)

この度、当館では集客を図るため、8月より SNS を開始しました。始めたばかりなので、グーグルのアカウントではヒットしないのですが、フェイスブックページで「佐倉市立美術館」と検索していただければ、ご覧いただけると思います。是非ご覧ください。

(会長)

他にご意見が無ければ、ここまでにしたいと思います。本日はありがとうございました。

(美術館)

それでは、議事はここまでとなります。

【閉 会】